

■グループの色、あめの種類：① 赤色、② カリンのど飴

■有識者委員：佐々木貴子委員

■市民委員：①赤色…志水有希委員、諏訪部容子委員、前後稔委員、富沢裕司委員、
中村紘子委員、山崎悟委員、山崎智行委員

②カリンのど飴…石栗和典委員、岸本佳廣委員、小島忍委員、
笹原邦子委員、島本和夫委員、峯田智也委員

■意見の概要

〈「こんな江別にしたい」、「ここが変わればいい街になる」、「市民ができることは何か」の3つの話題で意見を出し合った〉

1 こんな江別にしたい

[人を呼び込む]

《赤色グループ》

- アート（芸術的な）街をつくる。
- 周りの街の人たちが江別に行きたいと思うような行事や場所・施設をつくる。
- 札幌の隣の江別、ではなく、江別の隣に札幌、と言われるような街。
- 地域の特色をもっとアピールする。
- 他の市から、「江別っていいよね」、「江別に住みたい」と思われる街。
- “江別マダム”など市として一貫したイメージづくり（品位・品格があるまちとしてPR）。
- 全国に知られるような街。
- 市内ですべてまかなえる便利な街

《カリンのど飴グループ》

- 街全体の計画においてケチらずにいいコンサルタントを雇う（街づくりに対して職員は素人）。

[文化施設の連携の充実を！]

《赤色グループ》

- 施設がバラバラに点在している。
- 埋蔵文化財センターは埋もれている。
- [・循環バスで江別の名所めぐりができるような街]

《カリンのど飴グループ》

- 統一感を持って施設の内装・外装・配置を考える。

[福祉]

《赤色グループ》

- 高齢者が活躍する街（介護保険料が安い街）。
- 働きながら子どもを産んで育てられる街。

[環境]

《赤色グループ》

- エネルギーの地産地消。
- 環境に徹底的にこだわる街。

[街並みに特色を！]

《赤色グループ》

- 街並みの素敵な街。
- 歩道を花で飾りたい。

[産業]

《赤色グループ》

- 6次産業（1次、2次、3次産業の連携）が発展する街。
- 若者の農業者が多い街。

2 ここが変わればいい街になる

[知る！・素材を大切に]

《赤色グループ》

- 市民の江別に対する意識（江別は何もない街だと市民が思っている）。
- 市の特色の発掘（まだまだ埋もれている、知らないものもあるのでは？）。
- PR方法の検討（市の広報やHPだけが周知の手段ではない、時代に即した電子媒体も活用してはどうか）。

《カリンのど飴グループ》

- 素材（れんが、やきもの、川、船、風など）をどう生かすか。生活に根づいた活かし方を。
- 江別の歴史をもっと教師に学んでほしい（学んで子どもたちに教えてほしい）。

[人を集める]

《赤色グループ》

- 観光の目玉をつくる。
- 駅周辺の活気（イベントで駅まで人は来るのに、市として目玉となるものがないから途中下車しない）。

《カリンのど飴グループ》

- 楽しめる場所がない（知らない）。

[歳入]

《赤色グループ》

- 企業や関係団体を誘致して歳入や雇用を増やす。

《カリンのど飴グループ》

- 芸術性を高めた街づくりで、観光客と定住者の増加によって歳入の増加を図る。

[その他]

《赤色グループ》

- 農業、商業、工業、大学がもっと連携すれば街ぐるみで盛り上がっていくのではないかな。
- 住民税の負担が軽い市。
- 高齢者の活躍の場を作る。

《カリンのど飴グループ》

- 豊幌地区をちゃんと位置づけてほしい（3地区だけじゃない）。
- レンガを活用したイベント。
- 商業圏の確立。
- 市長や市職員の更なる努力。

- ・まちづくりのすべてのジャンルのことを自前でやろうとはせず、市民の生活基盤だけは保障してほしい。また市外の人には、ちょっと江別に行こうかと思える街づくり。
- ・これからの高齢化社会でどんどん歳入が減っていくことに対して、なおさら市外から江別に人を集めなくてはいけない。
- ・今後の江別はなにで市として稼ぐのか、を明確にしてほしい。
- ・緑の整備（緑はあるが、原始林など整備されていないものが多い、大型公園がほしい）。
- ・車がないと不便な街。

3 市民ができることは何か

[知る!]

《赤色グループ》

- 江別の自慢を1人1つ考え、言えるようにする。
- 市民の意識が変わるとよい（江別はなにもない街だと思っている）。
- アイデアをどんどん出す。
- 若者の農業者を増やす会を発足する。

[イベント等のPRを!]

《赤色グループ》

- ホテルが見られる場所があるのに、行き方や場所がわかりにくい。他の観光施設などへも含め、行き方（標識等）が整備されるとよい。
- 花を植える活動を市民で行う（学校も含めて）。
- イルミネーションやアイスクャンドルを町内会ごとだけではなく地区単位、市単位で行う。

- 〔・市民が1人1つレンガを焼いてそれを街並みに活用する〕

[その他]

《カリンのど飴グループ》

- 〔・江別市の健全行政は今まで何もしていないことの証とも取れる。これからはなにかするのであれば（するよう市民が求めるのであれば）、中長期かけてやるとなればなおさら、それに応じた年数を市民は待てるのか、市民も行政もそこまで考えなくてはいけない。〕

■グループの色、あめの種類：①青色、②キシリクリスタル・レモンミント

■有識者委員：隼田尚彦委員

■市民委員：①青色…景山奨委員、小島忍委員、佐藤尚人委員、内藤祐貴委員、
中野和代委員、名和靖子委員

②キシリクリスタル・レモンミント…相田晶子委員、佐藤幸子委員、
神千加委員、寺岡秀一委員、水野功委員、山崎悟委員、
山崎智行委員

■意見の概要

《青色：各委員それぞれ関心のある事柄を次々と発表する》

《キシリクリスタル・レモンミント：青色で出された意見をベースに更に意見を出す》

※模造紙には見出しを付けていないが、最後にある程度グルーピングを行った。

【雇用・企業誘致】

《青色》

○企業誘致担当部課の活動状況と問題点を知りたい。企業を呼び込むインセンティブを用意しているか。市税収入を高め市債発行を少なくすることを目指す。

○市内の雇用を増やす。

○雇用、働く場所づくりで、若者が増え賑やかさにつながる。まずは住んでもらうことも大事。

○産業を活性化させ中小企業もしくは正社員の増加につなげる。求人はアルバイトばかりだ。

《キシリクリスタル・レモンミント》

○江別は経済基盤が弱いので、良い企業を増やして雇用を増やす。

○市内にある会社（お店）をもっと知ること。

○事業者と学生の接点を作る必要がある。学生がたくさんいるのだからそれがマーケットになる可能性がある。

○企業誘致も大事だが人材の誘致も必要ではないか。

【自然の資源】

《青色》

○雪エネルギーの利用。農業等に活用できそうだし、雇用にもつながるのでは。

○住宅地の中にある自然（公園や川）を保全し、札幌の都会にはない魅力を出す。

《キシリクリスタル・レモンミント》

○川を資源としてもっと活用する。水運の歴史を学んだり、発電に用いたり、川下り体験なども良いのでは。

○泥炭土を活用できないか。

[景観]

《キシリクリスタル・レモンミント》

- レンガなど江別の特性を活かして景観に統一性を持たせる。
- 公園の周りの景観を保全するためのルールが必要。

[子育て]

《青色》

- 小中学校の耐震化を急ぐ。子どもが守られる安心はアピールにもなる。避難所になった時にどこが安全かも気になる。
- 小学校の安全性など、子育てや養育に関して気になることが多い。

《キシリクリスタル・レモンミント》

- 札幌の保育ママ制度を江別でも導入する。

[農業]

《青色》

- 農産物に付加価値をつける。江別産の農産物を活かし切れていないのが残念。例えばアロニアなど。
- 貯蔵庫を整備し、冬に備えた農業にする。
- どんぐりで飼育するイベリコ豚で振興を図る。

《キシリクリスタル・レモンミント》

- 農業を企業化する。また雪を農業に活かす。

[観光・賑わい]

《青色》

- 観光名所を作り観光客を呼び込む。Rera のような商業施設でも良いので。江別駅は主要駅なのにも寂しい。
- シャッター通りの有効活用。お化け屋敷にして話題を集めたマチもある。

《キシリクリスタル・レモンミント》

- もっと市内でお金を使う。
- カフェ、ライダーハウス、歴史的建物など人が集う場所づくり。
- 魅力あるイベントを作る。
- 多目的なショッピング施設があれば良い。広場があってアートやコンサートのイベント会場としても使えるような。学生が活躍できると場になれば。
- 新たな施設を作らなくてもあるものを利用して観光名所ができないか。
- 今ある施設や公園（湯川公園等）を活かして人を呼び込む。それから江別でお金を落としてもらうことも考えなくては。
- 江別高校跡地を有効活用できないか。
- 文化施設の拡充やPRを進めるべき。

【特色・魅力】

《青色》

- 転入者に江別に住むに至った事情を聴く調査をして江別の長所を探す。
- 江別・野幌・大麻の3地区はあえて統一しないでそれぞれの特徴、ターゲットを探すべき。
- スポーツ振興による健康管理で市の特色を出す。
- 天気予報の観測地点の適正化。現在の千歳川沿いは市街地よりもかなり低い気温になるので、江別は寒いとマイナスイメージが伝わってしまう。すぐにでも市に要望したい。

《キシリクリスタル・レモンミント》

- もっと情報発信力を強化すべき。
- あまり有名じゃない珍しい外国のマチと姉妹提携して話題づくりをしてはどうか。
- 煉瓦もち以外にレンガを利用した身近なものを作れないか。デザイン性のあるものを。

【都市基盤整備】

《青色》

- 幹線道路の整備が必要。白樺通の行き止まりを解消してインター線や国道275号線までつなぐ。

■グループの色、あめの種類：① 黄色、② 塩キャラメル

■有識者委員：千里政文委員

■市民委員：①黄色…岸本佳廣委員、佐藤幸子委員、神千加委員、島本和夫委員、高儀武志委員、深谷亮一委員

②塩キャラメル…大作美佳委員、草野靖広委員、齊藤良枝委員、前後稔委員、富沢裕司委員、名和靖子委員、山田明美委員

■意見の概要

《黄色：第1回の意見等を踏まえ、意見を発表》

《塩キャラメル：第1回と本日前半で話した内容等を踏まえ、さらに意見を発表》

【産業・雇用】

《黄色》

○江別市は、第何次産業が特色なのか分からない。特色がないまち。江別駅周辺は、第一次・第二次産業、野幌は第三次産業、大麻は文教地区。

○江別駅周辺で人が歩いていない。江別駅周辺のまちが、昔から見るとすっかり変わってしまった。シャッターのまちをこれからどうするか。

・一般的に、駅周辺には人が集まるものである。かつてレンガ工場で栄えた野幌駅周辺も、情報図書館などの公共施設や商業施設ができる前は今の江別駅周辺のような感じであった。時代に合わせた施設等があると良い。

・産業や仕事先が地元にはない→市外へ行く→子どもがいない→学校の統廃合…悪循環である。

・A-コープの移転があると、江別地区で買い物に困る人が生じる。

○雇用は、シルバー人材センターぐらいではだめ。70歳ぐらいまで雇用してくれるようになってほしい。

○江別で働く場所、良い企業が少ない。高卒、大卒の就職もままならない。

○工業団地の活性化をどうするのか。

《塩キャラメル》

○新しく農業に就労するための手立てが必要。手続きが煩雑で分かりづらい。外から入ってきやすいPRを。

○農業の法人化を。

【観光・にぎわい】

《黄色》

○人口9位にしては知名度が低い。「未来市民会議」をやっているというのもアピールになる。

○まちなぎわいをどこへ求めたら良いか。駅前か、商店街か、大型店か、札幌か、年寄りの集まる病院か、あるいは公園なのか。顔づくり事業で本当ににぎわいとなるのか疑問である。せっかく線路を高架にしても、分断されていた地区のつながりがなければ意味がない。

- 野幌のレンガの利用方法を検討してはどうか。
- スノーフェスティバルが子どもを持つ親にはあまり魅力がなく、しばらく行っていない。もっと大々的にやってはどうか。
- セラミックアートセンターの民間への売却はどうか。
- 学生が活躍できる場として、多目的スペース、イベント、アート展示、コンサートなどの機会を設けてはどうか。
- 買い物や散歩をしても、すぐに休息できるスペースがあると人が集まりやすいのではないか。
- 大型の公園がない。札幌の農試公園のような公園があると良い。民間の設計を取り入れてはどうか。
- 原始林を保護、整備し、環境保護しながら有効活用してはどうか。

《塩キャラメル》

- EBE-1（エベ・ワン）グランプリをやきもの市と一緒に開催してもっと大きくPRしてはどうか？毎年恒例になれば良い。

- ・EBE-1（エベ・ワン）グランプリはJC（青年会議所）が主催であったが、1年きりのものである。B級グルメのせっかく良いイベントだったのに、細かいところがダメであった。当初の予定よりもはるかに多くの人を訪れ、食べるものがなかったり、交通の混雑が発生したりなどの問題があった。
- ・EBE-1（エベ・ワン）について、農業まつりと一緒にやってほしいと丸投げされている状態である。

- セラミックアートセンターのPRが不足している。

- ・セラミックアートセンターをいろいろな人が使えるように、申し込みが混んだときは、1度利用した方にはご遠慮してもらおうなどというのはどうか。
- ・セラミックアートセンターで大学生が展示会を行っている。広報にも載ったが、PR不足であまり知られていない。
- ・知名度では、野幌運動総合公園はある程度分かる。セラミックアートセンターを産地直売所とセットでPRしてはどうか。

- 観光の目玉がほしい。もっと文化施設をPRして人を集めてはどうか。

- まち並みをきれいにして、魅力的なまちにしてはどうか。

- 農村地区を観光活用してはどうか（フットパス（歩くことを楽しむための道）など）。小麦のイメージが強いが独自ブランドの販売はどうか？地元でありながら、苦くないピーマン（フルーツピーマン）の情報をテレビで知った。→安定供給できないので地元のスーパーには置いていないらしい。

- 防災ステーションを大きくできないか。

【交通】

《黄色》

- 江別の交通網は、バス・JR・タクシーがあるが、住民の足はバスであり、バスはどこへ行くにしても不便である。夕鉄バスでは、1日5本ぐらいで、5人ぐらいしか乗っていないこともある。どうやって市が関与していくか検討が必要ではないか。バス路線網の整備が必要。

○手を挙げて停まってくれるバスがあると便利。美原一当別を走っているような小さなバスで良いのではないか。

○市が本当にお金をかけて改善する気があるのかどうか。

○地下鉄やトロリーバスはどうか。

《塩キャラメル》

○公共交通機関の充実をしてほしい。バス路線の乗り継ぎが不便で利用しづらい。地域住民の声を大切にしてほしい。

【子育て】

《黄色》

○学童保育の充実をしてほしい。本来の目的の確認の必要性を感じている。

《塩キャラメル》

○働きながら子育てしやすい制度を作ってほしい。

○学童保育の夕方30分から1時間ぐらいが保護者の時間と合わない。

○病児の預かり先が1か所市内にできたが、面倒な手続きがなくて利用しやすい。行政の施設の手続きには煩雑さがある。

○企業見学、特に市役所を子どもに見学させて、子どもの視点を取り入れてほしい。

【施設活用】

《黄色》

○学校を一部の地区にまとめるとその地域の活性化を阻むのではないか。学校を中心としたまちづくりのネットワークを構築してはどうか。

《塩キャラメル》

○学校が閉校した後の施設、体育館、グラウンドの有効な活用方法について、地元の人が簡単に利用できるようにしてほしい。どこへ聞いたら良いか分からず、使いづらい。

○学校給食を解放してほしい。高齢者など、地域のいろいろな人が給食を食べられると良いのではないか。

○高齢者の集まりでは何かと費用がかさむため、高齢者の方が学校の空き教室を手習いなどで利用できるようにしてほしい。

○空き教室などを使って、子どもと高齢者を同じ視点で考えた空間を江別でつくってほしい。例えば、デイサービス利用者と小学校の子どもたちの接する機会を多くするなど。福祉施設と一緒に（あるいは隣り合わせ）の教育施設はできないものか。

○大麻地区では、大麻ソルシティに若い世代が入ってくる一方、高齢化が著しい。学校の空き教室を有効利用してはどうか。

【高齢者対策】

《塩キャラメル》

○若い人が増えれば良いが、どう取り組んでいったらよいか。

○大麻地区では、道営住宅が取り壊され、一軒家がたくさん空いている。除雪が大変である。

【医療】

《黄色》

○市立病院は必要か？（売却してはどうか。）一次救命が必要ではないか。

【行政】

《黄色》

○行政の無駄遣いを監視するような市民会議の設置。

○市職員と民間とで格差がある。

《塩キャラメル》

○行政職員は、資料作成に時間をかけるよりももっと計画を実行する（足で動き回る）ことに力を注いでほしい。

【安全】

《塩キャラメル》

○豊幌地区は、かつて水のついた所なので年に1回ぐらいは冠水の心配をしてしまう。1度水がついたところは治水がしっかりしているはずなので、安全性が試されるのではないか。

【全体】

《黄色》

○今後の札幌市との距離感・立ち位置（産業・農業・交通 etc）をハッキリさせる。

2月13日 第2回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色、あめの種類：①緑色、②キシリクリスタル・ミルクミント

■有識者委員：押谷一委員

■市民委員：①緑色…相田晶子委員、草野靖広委員、齊藤良枝委員、佐々木愛委員、
笹原邦子委員、水野功委員

②キシリクリスタル・ミルクミント…景山奨委員、高儀武志委員、
高橋正生委員、中野和代委員、中村紘子委員、深谷亮一委員

■意見の概要

《緑色：「将来江別をどんな街にしたいのか」という視点から意見交換》

《キシリクリスタル・ミルクミント：緑色で出た「江別にお金を落とすためにはどうしたらよいか」という視点から意見交換》

【交通】

《緑色》

- 今後、車を運転できない高齢者が増えることを考えると、徒歩でも買い物しやすい街であるべき。
- 公共交通機関が充実し、自家用車を使わなくてもバス、JRなどで移動できる街であるべき。
- 幹線道路を整備し、バス路線の増設を図る。
- 現在のバス路線は、遠回りで時間がかかるため、マイクロバスの方がフットワーク良く動きやすいのではないか。
- バス路線を整備し、100円でどこでも行けるような循環バスを運行する。
- 自動車学校や浴場の送迎バスを利用した循環バスを運行してはどうか。

【医療】

《緑色》

- 自分がどのような状況になっても、出来る限り住み慣れた地域で生活を継続できる街にしたい。
- 市立病院は、医師がすぐやめていなくなってしまう。市内には開業医が多いので、医療機器の有効活用のため、当番制で市立病院を貸し出したらどうか。

【子育て支援】

《緑色》

- 今後は学校単独ではなくいろいろな機能を持った教育機関の集積を考えるべき。
- お金の支給だけでなく、長い目で見て子育てのしやすい環境づくりが必要である。
- 就労も含めた子育て支援が必要である。

【交流の場】

《緑色》

- 駅の中にギャラリーや病院などがあるような（北広島駅のように）、人が集まる総合的

な駅が必要。

○何かしたいと思っている人が気軽に集まれるコミュニティ広場のようなものがあるとよい。

○高齢者や子どもたちが交流しやすい環境を整えてほしい。

○市民が集まれる場所が沢山ある街だとよい。

○大麻、野幌、江別と地区が分かれているので、江別が1か所にまとまれる場所がほしい（江別のヘソ）。

《キシリクリスタル・ミルクミント》

○高架下を利用したイベント等、野幌駅の多用途化を図るべき。

【雇用】

《緑色》

○江別市内での雇用を増やすと、二世帯、三世帯と一緒に住めるようになるのではないかな。

○江別市内で仕事があるようになるとうい。

○市職員は全員江別市の住民であるとよい。

《キシリクリスタル・ミルクミント》

○優良企業が必要である。江別にとって良い企業とは、食品・農産物加工ではないかな。

【産業としての農業】

《キシリクリスタル・ミルクミント》

○生産から加工まで一貫した企業を育成して、何かブランド化して全国にPRできるものを作るとよい。

○雇用を作り出す産業を創成し、農産物を加工し、付加価値を高めていく。例えば、ただリンゴを売るより、それをジュースに加工した方が高く売れるし、さらにジュースをコップに入れてレストランで出した方が付加価値は高くなる。

○地元メリットのある産業を作り出すべき。

【観光】

《緑色》

○現在の江別市には特色がない。外から人が見に来るくらい特色のある市にしなければならぬ。

○レンガなどの特色を生かし、古いものを壊さずに利用して、歴史が残るようにするべき。

○フットパスを整備する。「江別市内を歩く」ことが目的であり、農村部以外でも、やきもの市に関係したコースや、日常生活における買い物巡り等のコースでもよい。

【江別市にお金を落とすしくみにするには】

《緑色》

○市外から人が来てもらわなければならない。江別駅にコーチャンフォーがあれば降りてくれるのではないかな。

《キシリクリスタル・ミルクミント》

- スポーツ振興を図ると、人が集まる、医療費の減少、街に特色が出る（常呂町のカーリングのように）、青少年の育成などが期待できる。それには指導者の育成が課題になる。
- 市内には大麻、野幌、江別にホールがあるが、どれも規模的に中途半端である。人を呼べる大きなイベントホールがあるとよい。
- 江別出身の有名人（大泉洋など）を呼んでイベントを行う。
- 婚活イベントをやり、イベントで結婚した方に住宅手当などの補助金を出す。
- ガード下（高架下）を利用した飲食店などがあると、札幌に向かう人が江別市内で降り、また札幌から帰ってくる人が江別市内で飲むようになるのではないか（それにはわざわざ行ってでも食べたい、飲みたいと思われる店があることが重要）。

【江別市のPR】

《キシリクリスタル・ミルクミント》

- 江別市の観光、特色など、様々な部分でPR不足ではないか。
- 国際会議を呼べるくらい街の特色がなければならない。
- やきもの市はよいが、年に1回だけその時限りの賑わいになってしまうので、月に2、3回市内のどこかでイベントをしてはどうか。
- イベント時以外の地道な活動もなければならない。持続可能な産業や大きなスポーツイベントを呼べるような基礎作りが必要である。

【宿泊施設】

《キシリクリスタル・ミルクミント》

- 現在は、イベント等をやっても宿泊するところがなく、札幌に人が流れていってしまう。江別に宿泊すれば、夜の飲食等で地元にお金が落ちる。

【エネルギーによる発展】

《緑色》

- ごみ焼却処理場から出る熱や下水処理場から出るメタンガスなどを効率よく各施設等に利用すべきである。

【その他】

《キシリクリスタル・ミルクミント》

- それぞれの街（大麻、野幌、江別）の特色が分かれているのはそれでもよく、その特色をそれぞれ出してもよいのではないか。
- この市民会議で宴会をしましょう！

■グループの色、あめの種類：①ピンク色、②チェルシー

■有識者委員：佐藤克之委員

■市民委員：①ピンク色…石栗和典委員、大作美佳委員、高橋正生委員、寺岡秀一委員、峯田智也委員、山田明美委員
②チェルシー…佐々木愛委員、佐藤尚人委員、志水有希委員、諏訪部容子委員、内藤祐貴委員、松本教子委員

■意見の概要

《ピンク色：第1回の意見を踏まえて、1人1つずつ意見を発表》

《チェルシー：第1回と本日前半で話した中で、特に発表したい意見を発表》

【ネットワークの構築】

《ピンク色》

○中小企業団体、商工会議所、工業団地等のイベント、道立や市立の公共施設、4大学の地域開放など、それぞれがバラバラに行っているため浸透しない。情報の共有化やネットワーク化がされれば、商業的なものにもつながっていく可能性がある。

〔・江別では1日遊べない。例えば、遊歩道（図書館に行って、酪農大学に寄り、近くのお店でおいしい牛乳が飲めるなど）があれば江別を知ることにもなり良いのではないか。〕

【誘致・地場力】

《ピンク色》

○地場雇用力を強化する。せっかくある4つの大学を卒業した学生が北海道に就職せず、離れて行ってしまふ。まずは、経済を活性化しなければ何もできない。

○ぜひ、江別に大型ショッピングセンター（アウトレットモール等）を誘致してほしい。江別より人口の少ない北広島市や千歳市にはある。企業が主導ではなく、地域が主導で誘致することはできないだろうか。

《チェルシー》

○企業誘致により、雇用、歳入が増え、市が豊かになることによって自然と人が増える。

〔・土地が余っているので、企業誘致をするべきではないか。
→企業誘致は、他力な感じがする。高齢者が多いので、介護施設を作るという方が、自然な感じがする。
・海外からのお金が入るような仕掛けが必要ではないか。例えば、中国など海外の映画の舞台として誘致し観光客を呼び込むなど。〕

【雇用】

《チェルシー》

○市内の雇用を充実するべきである。

○高齢者が元気で働ける場が必要である。高齢者が働いても税金がかからない仕組みにし、元気な高齢者を増やすことによって、介護保険料もかからなくなるのではないか。

[PR・情報発信]

《ピンク色》

○江別ブランドのPRができていない。市民ですら知らないものがある。市民が理解して市外の人たちに売る努力をするべきである。

○イベントがたくさんあるのに市民が知らない。PRが不足している。

○情報をどのように伝達していくか。紙、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなど、いろいろな媒体を使ってPRしてはどうか。

・ホームページでは、常に新しい情報があるということを伝えていかないと、誰も見なくなってしまう。

・江別に住んで日が浅い人たちが、江別を知る手段がない。また、自分で知ろうとして動いてほしい。知ろうとしない人たち、これがよくない。

《チェルシー》

○まち全体で何かに取り組む。例えば、まち全体でアイスクャンドルなどを行いPRすることで、江別が知られるようになるのではないか。

○環境を重視したまちづくりを進め、エコを核としたイメージづくりをし、江別をPRする。

[若い力の活用]

《ピンク色》

○高齢化が進んでいるため、高齢者の意見が通りやすい状態にある。しかし、若い人たちは、そんなに時間の余裕がないが、若い人たちの意見を加味せず、まちづくりを進めてしまうと道を誤ってしまう。

○多くの若い力を地域に生かしていない。

○人口構成で20～30代が少ない。このままで、ベッドタウンと言えるのだろうか。

[安心・安全な環境]

《チェルシー》

○道路だけ除雪しても歩道も除雪しなければ危ない。

○冬に自転車に乗っている高齢者を条例で取り締まることはできないだろうか。

○小中学校の建物の耐震化を急いで行い、子どもたちが安心して通える環境、避難所としても安心な建物であるという環境を整える。

○地域福祉の充実と高齢者と子どもが集える環境整備をする必要がある。

[自然の保全]

《チェルシー》

○住宅街の自然、今、残っているものを保存し、子どもが遊べる環境、子育て世代が育ってきた環境を保全する。自分たちが育ってきた環境で子育てを希望する人たちがいると思う。

【交通】

《チェルシー》

- 幹線道路を整備し、人・物の流通を便利にする。

【公共施設・イベント等の活用】

《ピンク色》

- 野幌駅の高架下や駅前広場の活用を考えるべきである。
- イベントで全道から人が集まっても宿泊施設がないため、札幌に人が流れてしまう。
- 立派な道立運動公園があっても、あまり利用されていない。また、交通の便も悪い。せっかくの施設を活用するべきである。
- 大学の施設の有効利用を考える。例えば、年配者が学校を利用するというのも1つの方法ではないか。
- お祭りのあり方を考える。例えば、農業まつりは浸透しているが、企業まつりは知られていない。もっと市民、特に子どもに向けてのPRをすることによって、江別にある企業が子どもたちの中にインプットされ、将来の就職先として選択肢の1つになるのではないか。

《チェルシー》

- 駅前を活性化する必要がある。

【農業】

《チェルシー》

- 後継者対策が必要である。
- 6次産業化に力をいれる。

【独自のまちづくり】

《チェルシー》

- 12万都市となった最大の理由は、札幌のベッドタウンだったからではないか。他市と同じような方向に進まなくても、江別の良いところを伸ばせばいいのではないか。プチ札幌、プチ東京にならなくていい。江別市独自のまちづくり、大麻、野幌、江別、それぞれのニーズにあわせたまちづくりを進めるべきである。
- 歳入を上げるためにはどうしたらいいか。歳入があれば、誰も文句を言わない。独自の考え方を持たなくてはだめである。

〔・成長が限界に来ており、欲を押さえて、身の回りのできることをやっていくという選択の時だと思う。今後、大きな収入を得るような仕掛けを作るのは難しいのではないか。〕